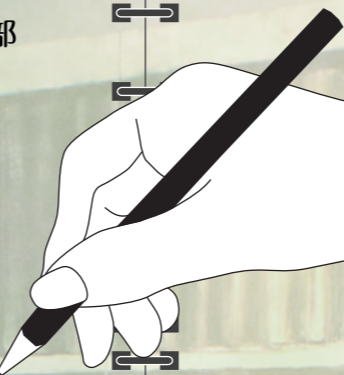


# NEWS LETTER



## 2014.11月号

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます。



NewsLetter 2014年11月号 vol.50

2014年11月30日発行

Editor	金澤英樹	(本学職員)
Writer	永田久美子	(フリーランス)
Art Director	渡邊哲意	(本学准教授)
	芦谷耕平	(本学講師)
	小野寺真央	(イラストレーション領域4年)
	松波恵	(イラストレーション領域4年)
Designer	有馬ゆづか	(マンガ領域3年)
	河野真美	(マンガ領域3年)
	高田佳奈	(イラストレーション領域3年)
	中田亜花音	(イラストレーション領域3年)

### HOT TOPICS

「東京デザイナーズウィーク2014」にイラストレーション領域が参加!

渋谷芸術祭の演出とCM制作に渡邊准教授と学生が参加・協力!

木津川アート2014に教員と学生が参加!

亀山トリエンナーレ「アート亀山2014」に田島専任講師が参加!

北見隆教授の20回目の個展、「不可思議な夜」が開催される

卒業生、千葉奈央さんの作品が『月刊ドラゴンエイジ』12月号より連載開始

「ドッグダンス」チラシデザインコンテストでイラスト領域の学生作品が採用

大ガードの「みるっく作品展」にてイラスト領域の学生作品が展示

インターリンク・学生映像作品展にアニメーション領域の作品がエントリー

実は新宿も熱かった! 学生自主参加のハロウィンパーティ!

「トンドの夢想家達」展に北見教授、高田講師が参加

卒業生 夢島スイさんの作品が「狂える者の書」の表紙絵に

卒業生 夢島スイさんが「ガーリー展」に出展

### 授業紹介

メディア芸術学 竹内一郎教授ほか

### 教員紹介

アニメーション領域 濱本愛果助手

### 学生紹介

ゲーム領域3年生 田中美涼さん

東京新宿キャンパス  
東京メディア・コンテンツ学部 | 大学院  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿七丁目11番1号  
TEL:03-3367-3411  
FAX:03-3367-6761  
E-Mail:tokyo@takara-univ.ac.jp



表紙写真  
TDW参加作品「アナログの逆襲」

# 「TOKYO DESIGNERS WEEK 2014」に イラストレーション領域が参加!

HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定



アナログの逆襲  
をテーマにした  
本の怪物オブジェ  
が来場者の  
話題に



今年で29回目を迎える国際的なクリエイティブイベント「東京デザイナーズウィーク2014（以下TDW2014）」が、東京・明治神宮外苑の特設会場で開催されました（10月25日～11月3日）。建築、インテリア、プロダクト、グラフィック、アートなど、優れた生活デザインとアートが世界中から集結、毎年12万人の来場者を誇るこのイベントの学生展ブースに、イラストレーション領域が3度目の出展を果たしました。

今回の学生展のテーマは「マイ・アバンギャルド」。実行委員メンバーと北見教授、高田講師の間で議論を重ねた末、絞り込まれたのは「アナログの逆襲」でした。素材として選んだのは、人間がこれまで慣れ親しんできた本たち。情報のデジタル化が進む中で、ないがしろにされ、人間の脅威となり生まれ変わった本の怪物をアバンギャルドなオブジェとして制作・展示しました。

★学生代表 & 副代表に聞きました!

昨年の作品を憧れの眼差して見ていたので参加を募る時に一番に手を挙げました。当初メンバーが集まらず苦労しましたが、大学の学生ホールの隅で作業をしていたら、何人もの学生が「何してるの?」「手伝おうか?」と声をかけてくれ、最後にはかなりの人数になりました。そんな経緯もあったので、完成したときはいろんな意味で大きな達成感がありました。

学生代表・イラストレーション領域3年生

布施祥子さん  
（都立大泉校高校出身）

来場者のコメントでうれしかったのは「先進的でカラフルな作品が多い中、手作り感があってモノクロなブースがとて目をついた」「本の怪物がとて魅力的でカッコいい!」というもの。また海外からのファミリーの反応がよく、「ファンタスティック!」とあってオブジェと一緒に写真を撮っていつてくれたのはうれしかったですね。

学生副代表・イラストレーション領域3年生

富永真結さん  
（東京立正高校出身）

# HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定



田島講師に聞きました！

重慶亀山市で開催される公募による現代アートの芸術祭「亀山トリエンナーレ」アート亀山2014」に、本学の田島専任講師が出演しました（11月2日～9日）。



この作品は、道行く人ひとと、イベントに関わる人ひととの交流のきっかけになればと考えて制作しました。アーケードに設置したプロジェクターから路面に向けて、商店街の店主さんや、出展アーティストの顔を「おはじき」に見立てて投影、人が通るとセンサーに反応して動くというもの。顔と顔がぶつかると「がんばってまーす！」「彫刻彫ってます！」など本人たちの声も出ることから、道行く人々、特に子どもに人気がありました。

亀山トリエンナーレ「アート亀山2014」に田島専任講師が参加！



木津川アート2014に本学教員と学生が参加！

京都府木津川市で始めて今年で5年目となるアートイベント「木津川アート2014」に、「宝塚大学新宿キャンパス外連携室」として出展しました（11月2日～15日）。参加したのは、田島悠史専任講師、渡邊哲意准教授、林亜幸音TA（ティーチングアシスタント）と映像領域増田結衣さん（千葉県植草学園大学付属高校出身）、コンテンツデザイン領域篠崎千香さん（和洋国府台女子高校出身）。7日にはイオンシネマ高の原にてトークショーも行われ、普段は静かな山間の街が多彩なアートに彩られた2週間となりました。

渋谷芸術祭の演出とCM制作に渡邊准教授と学生が参加・協力が！

渋谷区が後援する秋のイベント「渋谷芸術祭」。この演出とCM制作に、本学教員と学生が参加・協力しました（10月25日～26日）。メイン会場となった渋谷駅八子公前広場にある桜の木に網状の布を6枚吊るし、色鮮やかな光のアートを照射すると、宙に浮いた映像が不思議な世界を演出。文字通りの「シブヤがアートに染まった2日間」となりました。

渡邊准教授に聞きました！

実行委員会の方からハチ公前ヒカリのアートの制作、イベントステージを受け持つラジオ番組からCMの撮影依頼がありました。イラストレーション領域の澤田千春さん（都立深沢高校出身）と撮影・編集してCMを制作。ヒカリのアートを同じく澤田さんと、ゲーム領域の石川雄仁さん（渋谷教育学園渋谷高校出身）、鈴木啓修さん（新潟県立三条東高校出身）、マンガ領域の篠田貴之さん（都立足立西高校出身）、映像領域の増田結衣さん（千葉県植草学園大学付属高校出身）とともに制作・設置を行いました。制作したCMは期間中、渋谷の街中のモニターをアドジャックしていたところで放映されました。



林亜幸音TAに聞きました！

・水路の水は流れ続け、そこで生活する人々だけが一瞬停止し、また動き出す。  
・20の画面が時間差で静止するため、全体が連携してひとつの世界を映しだすユニークな映像作品。  
・夏休みの撮影では、学生が「協力お願いします」と地元の方に声をかけ、水路の歴史話に花が咲いたこともありました。

木津川市は京奈和自動車道を挟んで新しい街と古い街に分かれています。今回は古い大里地区に昔から流れる水路に着目し、20画面同時に20の水路が流れる映像作品を制作しました。水路の水は昔から変わらず流れ続けていますが、住む人々は変化します。水路の流れと人々の生活の異なる時間軸を、一方を静止させることでハッとさせる、そんな作品に仕上がったと思っています。





# 卒業生、千葉奈央さんの作品が『月刊ドラゴンエイジ』12月号より連載開始!

デビュー作「姫女子!」が電子書籍コミック雑誌『エイジプレミアム』に掲載され、また『月刊ドラゴンエイジ』（富士見書房）に読切り作品が3作掲載されて活躍中の本学卒業生、千葉奈央さん（ペンネーム：幸奈ふなさん）。このたび、「魔法使い候補生と魔王さま」が『月刊ドラゴンエイジ』12月号より連載されることになりました。

## 千葉さんに聞きました!

担当さんとやり取りする中で「そろそろ行こうか!」と初めていただいた連載のお仕事、本当にうれしいです。この作品は、30歳童貞でダメな兄をもった弟が、「兄のようになりたくない」と努力しているところへ、兄が魔王を連れてきて邪魔をするというストーリーのラブコメです。読切り作品では描けなかった人間の細かい心の動きまで丁寧に描くつもりです。単行本を出したいので、皆さん応援よろしくお願いします!



# 北見隆教授の20回目の個展、「不思議な夜」が開催される

HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定



**東** 武百貨店池袋店6階の美術画廊にて、北見教授の20回目を記念する個展「不思議な夜」が開催されました（10月16日〜22日）。会場には北見教授が過去に手掛けた書籍の挿絵や表紙絵を中心に50点を超える作品が展示され、期間中は多くの来場者が訪れました。18日にはトークショーも行われるなど、北見ファン必見の個展となりました。

**北見教授に聞きました!**  
私が依頼されるイラストレーションの仕事は、ミステリー小説の挿絵や表紙絵が多く、今回はそれらの原画を中心とした展示なので、「不思議な夜」というタイトルにしました。この20年の間には自分にとって転機となったような、いくつかの大きな出来事がありました。例えばこの大学に関わる様になったのもその一つです。20回目を迎えて思うのは、ベースを保って続ける事の重要さ。体力も落ちて来ましたが、今は楽しみながらも自分で納得のいく絵を描いていきたいです。トークショーでは僕の予想を上回るお客様がいらして下さってうれしかったですね。人前でしゃべるのは苦手なのですが、大学で少し鍛えられたのかもしれない（笑）。





**新**宿のまちの魅力を集めた・連続的に発信するイベント「来て・見て・楽しい新宿ワールドミュージアム2014」の一環として、今年もギャラリーオーガトにて「みるつく作品展」が開催されました（10月24日～11月27日）。期間中、壁面ウィンドウにはイラスト領域の学生たちが「東京デザイナーズウィーク2013」で出展した「額縁の国のアリス」作品群を中心に展示。ガード下を歩く人々の目を楽しませていました。

## 大ガードの「みるつく作品展」にて イラスト領域の学生作品が展示！

## インターリンク・学生映像作品展に アニメーション領域の作品がエントリー！



**映**像制作を行う大学・専門学校の教員が推薦する優秀作品を集めた「インターリンク・学生映像作品展（ISMIE2014）」（主催：日本映像学会・映像表現研究会）が開催されました（10月25日～26日）。今年で8回目を迎える同展には、アニメーション領域卒業生の中込健人さん（都立工芸高校出身）と藤倉拓也さん（田無工業高校出身）のグループによる卒業制作、「ルチャ・ヘメロ」がエントリーしました。

## 「ドッグダンス」 ポスターデザインコンテストで イラスト領域の学生作品が採用！



- HOT TOPICS
- 授業紹介
- 教員紹介
- 学生紹介
- 今後の予定

**音**楽に合わせて愛犬家と愛犬がダンスをするドッグダンス。2004年からドッグダンス競技会を開催している Wiz. Dog Club が行ったポスターデザインコンテストで、本学イラストレーションコース3年生の高田佳奈さん（都立工芸高校出身）がデザインしたポスターが採用されました！



高田さんがデザインしたポスター



採用された記念にパチリ！



### 高田さんに聞きました！

Wiz. Dog Club さんからいただいたドッグダンスの写真素材の中で私が選んだ写真がたまたま前年度の優勝者のものだったことが、一番のポイントだったかもしれません（笑）。デザインで心がけたのは、赤やピンクなど暖色系を使い、写真の邪魔にならないようイラストをあしらったこと。また必要な情報をしっかり読ませながら、ドッグダンスの楽しさを表現できたと思います。



フィードバックを受けている応募した学生たち

- HOT TOPICS
- 授業紹介
- 教員紹介
- 学生紹介
- 今後の予定

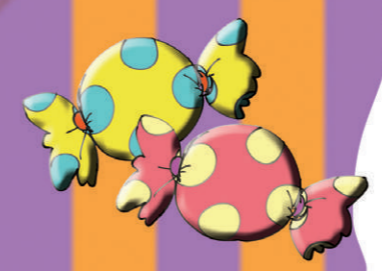
実は新宿も熱かった！ 自治会主催の

# ハロウィンパーティー！



**10月31日夕刻**。宝塚大学の201教室には、一人、また一人と怪しい仮装をした学生たちが集まり始め、異様な雰囲気の中、毎年恒例のハロウィンパーティーが始まりました。

日々コスプレのクオリティを高めることに情熱を傾けるコスプレサークルの学生は、プロかと思うほどの見事な出来栄え。お互いを見て笑い合い、たたえ合い、写真を撮り合って交流を深めていました。仮装した教員が乱入すると、会場はますます盛り上がり、怪しい集団はそのまま新宿の街に繰り出し、(マナーを守りながら) 西新宿を練り歩きました。



## 「トンドの夢想家達」展に北見教授、高田講師が参加

**中** 中央区京橋のギャラリー・オル・テールにて、「トンドの夢想家達」展VOL.Ⅱが開催され、本学の北見隆教授と高田美苗講師が作品を出品しました(11月中の金曜・土曜のみ全8日間)。この企画は幻想芸術に造詣が深い修復家の井関周さんの呼びかけで集まったアーティスト32名による作品展で、昨年の第一回展が非常に好評だったため、このたび2回目を開催することとなりました。

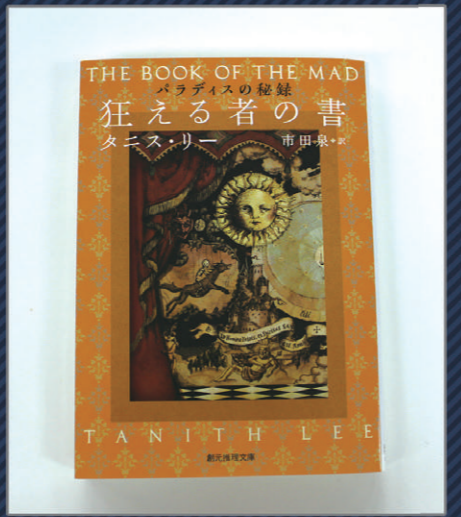


高田講師の作品です。



トンドとは、イタリア語で「円形」を意味します。主にイタリア・ルネッサンス期には富裕層の間で円形の絵が愛好された時期があり、発起人の井関さんの呼びかけで「現代のトンドの絵画展をやらう」ということと。私は天使と悪魔の祈りを象徴するような対の作品を出品しました。「一見すると天使は善、悪魔は悪に見えますが、祈りはひとつのもの」だという意味を込めました。

## 卒業生 夢島スイさんの作品が「狂える者の書」の表紙絵に!



## 同じく卒業生 夢島スイさんが「ガリー展」に出展!



**創** 元推理文庫より9月30日に発売された文庫本『狂える者の書』(パラダイスの秘録)(タニス・リー著/市田泉訳)の表紙絵に、卒業生夢島スイさんの作品が採用されました。

**夢島スイさんへおめでとう!**  
私のホームページを見た出版社の編集部の方が連絡をくださり、表紙絵に採用していただきました。この絵はもとも某アパレルブランドのために描いた作品でしたが採用されず…。でも今回の表紙として使ってくださいよかったです。私の絵は表紙絵に向いてないと思っていました。わりと評判がよく周囲も驚いているようです。

**新宿区大京町にある The Atcomplex Center of Tokyo**の地下ホールにて、卒業生の夢島スイさんがグループ展「ガリー展」に作品を出展しました(11月7日~16日)。夢島さんが本学2年生だった頃にお付き合いのあった画廊より声がかかり、今回の出展が実現したそうです。

**夢島スイさんへおめでとう!**  
私は絵を描きながら、たまに自分の絵が嫌いになることがあります。でもそんな思いをしただけ作品は重みを増しますし、その結果、好きになっていきます。こうした展覧会で嬉しいのは、見てくれた方が「私も好きです」と言ってくれたことです。私は自分の絵で居場所を作っているの、そうしたコメントはとても重要です。

HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

# 同じ志をもつ人に 出会える場所

アニメーション領域

## 濱本愛果 助手



HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

# 領域を超えて プロに学ぶ授業

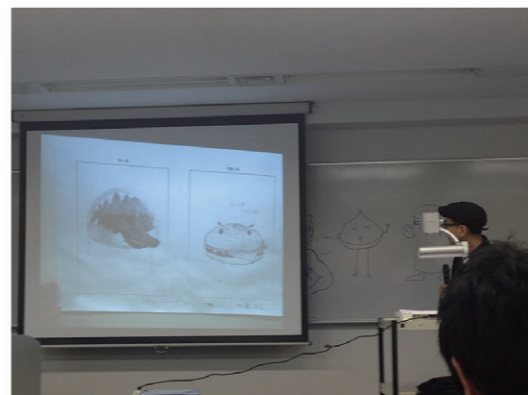
## メディア芸術論

学科必修科目

受講学年：1年

担当教員：竹内一郎教授 北見隆教授 川村順一教授 渡邊哲意准教授

田島悠史専任講師 芦谷耕平専任講師 上原愛弓助手 増田宗嶺助手



東京メディア・コンテンツ学部は、2015年春から東京メディア芸術学部へと名称変更します。今後、本学が確立・発信していこうとしている「メディア芸術学」という学問は、伝統的な芸術の基礎を踏まえつつ、時代の流れによる技術革新に対応できる柔軟な姿勢をもつことをねらいとしています。

時代の要請に  
領域の垣根をなくす

現代は、ある領域のコンテンツが他領域で生まれ変われる「インターメディア」の時代です。例えばAジャンルで解決している問題が、Bジャンルでは解決していないことはよくあります。しかしAとBの風通しをよくすることで、新しいコンテンツが生まれる、これがインターメディアです。本学部には、マンガ、イラストレーション、ゲーム、アニメーション、映像、コンテンツデザイン、6領域があります。「メディア芸術論」の授業では、第一線で活躍する各領域の先生方から実践的な授業を受けることができます。この授業を受けると、例えばマンガ領域の学生が映像領域の魅力を新たに知ったり、自分の領域の特徴に気づくことも。また、他領域の授業で身につけた技法や方法論を自分の領域での活動に応用できるようにすることを、この授業では目指しているのです。高3の段階で自分が向いている領域を見極めるのが難しい場合もあります。こうした学生は、「メディア芸術論」の授業を受けた後、領域を移ることも可能です。

全領域につながる  
記憶・観察・発想力

今日は、イラストレーション領域の北見隆教授による「記憶と観察と発想」授業（3回）です。1回目の授業では、記憶を頼りに千円札を描き、その後実物を5分間観察して描きました。学生は、曖昧な記憶で描いた絵と観察後に描いた絵の違いを痛感していました。2回目の今日は「観察と表現」で、身近にあるものに「かわいい系」「怖い系」のイマジネーションを加えて描きました。人間のユニークなところは、幸せをイメージせよと言われたら花畑止まりなのに、地獄や恐怖をイメージさせると豊かな発想力を発揮してあらゆる恐怖を描けることです。それを裏付けるように、学生たちはやはり巨大な舌を出すハンバーガーやポーチなど「怖い系」の表現に素晴らしい工夫が見られました。次回3回目は、2回目の絵をキャラクターデザイン化する授業。そのキャラクターの使用例、またどんな企業で使われる可能性があるかなど、実際の仕事の流れに沿って進めていきます。絵が得意ではない領域の学生たちの発想力も非常に楽しみにしています。

「アニメ好き」を  
隠し続けた高校時代

小学校時代は荒川の土手にダンボールを敷いてソリすべりをしたり、バツたをつかまえて遊んだり、ゲームも必ず外に持ち出して友達と一緒にやっていました。裸足が大好きで放課後はいつも裸足で外を走り回る女の子でした。

中学時代はテレビアニメ「ワンピース」にハマりました。番組を録画しては、好きなシーンで一時停止し、「この表情いいなあ…」と感動しながら書き写したものです。

高校は普通科に進学、周囲に同じ趣味の友達もいなかったことから、私はアニメ好きであることを周囲に隠して過ごしました。しかし高3の進路選びの時期になり、「ちょっと待てよ、行きたいところを我慢して興味のない大学に行つてどうするの?」と思い直し、先生に正直な気持ちを伝えました。子ども頃からアニメ好きで、絵を描き続けてきたこと、アニメが学べる宝塚大学に進路変更したいことを告げました。最初は反対されましたが、話していくうちに「私

がどれほどアニメ好きか」を納得していただき、最後には応援してもらうことができました。

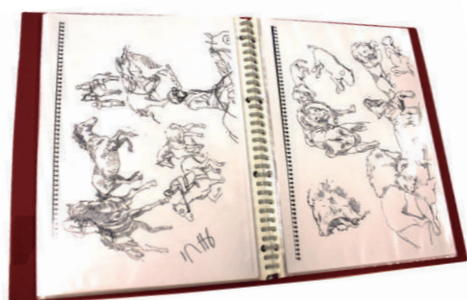
大学での人間関係に  
支えられて今がある

大学在学中は大好きなアニメーションを学べて楽しかったと同時に、同じ志をもった素晴らしい友達と巡り合えたことが最高の財産となりました。当時はバイトをしたお金で友達と飲みながら語り合っただけの楽しみでした。卒業後はアニメ会社にいったん就職しましたが、諸事情あって辞めることに。迷っていた頃、大学時代に教授補佐をされていた芦谷先生から「アニメ領域の助手をやらないか?」とお誘いがありました。また卒業後アニメ制作会社に就職していった友達から「仕事しない?」と声がかかり始めました。大学時代の人のご縁から、今はこうしてこの大学の助手を務めながら、フリーのアニメーターとして仕事をしています。

今、私が心がけているのは、学生がなんでも安心して気軽に話せる存在になること。そうなることで学生たちを身近でサポートしていければと思っています。私にとって芦谷先生がまさにそうであったように、私も学生の思いを引き出せるよう、がんばります。



濱本さんが担当した  
ニュースレター vol.49 の表紙



濱本さんのポートフォリオ

★濱本愛果助手プロフィール  
2012年、宝塚大学東京メディア・コンテンツ学部アニメーションコース卒業。現在はフリーのアニメーターを務めながらアニメーション領域助手としても本学に勤務。

HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

## デッサン講習会

日時：12月13日(土)  
9:30~12:30  
会場：宝塚大学 新宿キャンパス

主な内容：高校生の方を対象に基礎的なデッサン講習会を実施します。本学でデッサンの授業を行っている教員が基礎から丁寧に指導します(要予約)

## 進学相談会



日時：12月13日(土)  
13:00~16:00  
会場：宝塚大学新宿キャンパス

主な内容：領域紹介、入試個別相談、入試過去問配布、学生制作のiPad・iPhoneアプリ体験、在学生とのフリートーク、作品提示・作品上映 など(予約不要)

# 好きなことは あきらめない

ゲーム領域3年

## 田中美涼さん

(東京都 堀越高校出身)



絵を描くよりも  
美しい絵を見るのが好き

私は小学2年生の時に東京から青森県八戸市に引越し、2年間をそこで過ごしました。木登りが大好きで、よく男の子と一緒に登っては遊び、冬には雪遊びを楽しみました。今でも覚えているのは、「かまくら」作りに熱中し、誰のが最後までとけずに残るかを競い合ったことです。  
5年生で東京に戻りましたが、訛っている友達にからかわれました。傷ついたこともありましたが、転校生は何かと先生に気遣われるため、からかった男子が叱られるハメに。転校生の処世術でしょうが、イヤなこと笑って流すようになりましたね。  
私は絵を描くことより美しい絵を見るのが好きでした。でも本は大嫌いで本屋さんに行くのが悪くなっていました。あるときゲームの攻略本のきれいな絵が目に入り飛び込んできて、生まれて初めて文字から自分の興味のある情報を得られる体験をしました。そこからですね。ゲームの攻略本集めに夢中になったのは、そうして徐々にマンガを読み始め、小説も読むようになっていきました。

問題は努力の差？  
それなら努力してみよう

中高時代はゲームにはまり、新しいゲームを買ったら朝6時〜夜の9時までやって3日でクリアしていました。母ですか？「ご飯はちゃんと食べなさい」とは言われませんが、叱られることはありませんでした。今思えば、私が夢中になることにはストップをかけずにいてくれたように思います。  
高校生のとき、興味のある大学や専門学校を何校も見歩き、結局美大が楽しそうだという結論に至りました。周囲からは「食べていけないのか？」という声もあり、正直不安がなかったといえませんが、音に「就職できない人もいます。でもそれは努力の差であって、本気で努力すれば就職できるし、実際にちゃんと就職しているよ」とのこと。「そうか。それなら私は努力しよう」と考え、宝塚大学に決めた経緯があります。入学後は、課題や学生自治会の活動も「死ぬ一歩手前までやる」という気合でやってきました。今、この若さだからできることだと感じて

います。

この大学で私が一番好きなのは「キャラクターデザイン」という授業。自分が考えたキャラクターを学生の前でプレゼンするので、この授業ではキャラクターの作り方を学ぶと同時に「人に興味をもたせるしゃべり方」も身に付けられます。楽しいですよ。



「キャラクターデザイン」の授業でプレゼンしてもっとも好評だったキャラ「ぶく丸」。